

少数決から新ゲーム爆誕!?

ニコリにはペンシルパズルだけではなく、コンテストやゲームなどの楽しみがありますが、このたび私(安)が、ロータリークラブでとんでもなく盛り上がったゲームを生み出してしまったのです。ウソかマコトか、その顛末を。

ニコリ前社長鍛冶真起(起)の評伝「すばらしい失敗」(ニコリ刊)の中で、(起)が東京山の手ロータリークラブに所属していた話が出てきます。ロータリークラブは、いろいろなビジネスパーソンがいて、奉仕活動などを行ったりするNPOの一種ですが、(起)もクラブの会合で数独を教えたり、東日本大震災からの町の復興にかかわる活動をしたりしていました。

(起)の没後、ニコリを継いだ私がロータリーの会員も継ぐことになり、入会するやいなや、こんなことを頼まれました。

「年末のクラブのパーティーに百人くらい集まるんだけど、みんなで遊べるゲームとかありませんか？」

それはもう、ニコリダービーがベストですよ。ニコリダービーは、現在も「数独通信」で毎号開催していますが、参加者たちが1頭ずつ、枠の番号を選んで愛馬を出走させ、その枠の番号を自分ひとりだけが選んでいたらゴールできる、というゲーム。1回でも参加したことがある人なら実感できると思いますが、ホント面白いゲームです。ライブで遊べば、自分が選んだ番号が最後まで残るかどうかのハラハラドキドキ感が、よりリアルに味わえます。

実際に遊んでみたらもちろん大ウケで、とても喜ばれました。「遊びの会社」の面目躍如というところでしょうか。

＊

その後、また違うゲームの依頼を受けました。「新入会員が入ると、自己紹介を兼ねたスピーチをするんだけど、そのときに、会員の人となりによりわかるようなゲームって、考えられませんか？」

なんだか難易度がグンと上がる依頼なんですけど…。しかも、10分ほどで遊べるゲームにしてほしい、とのこと。いくらパズルの会社、遊びのエキスパートとはいえ、これは大変だぞと思いつつ、1カ月悩んで2種類のゲームをひねり出しました。

「ニコリで知る〇〇さん」と命名されたそのゲーム。1つめは、パーティーゲームとしてはよく知られているもの。主役の人に、ある質問に対する答えを用意してもらい(例えば

「好きな食べ物は？」という質問に対して「イチゴ」とか)、他の参加者は、イエス・ノー・どちらとも言えない、のどれかで答えられる質問を考えて主役につけ、その答えから正解を探る。10分で遊ぶために、事前に質問例をたくさん用意して、主役の人にあらかじめ選んで答えまで用意してもらうことにしました。このゲームは、テレビのバラエティ番組でもときどき行われているようですね。

もう1つのゲームは、他の参加者たちが、AかBかの二択で答えられるような質問を考えてもらい、主役の人を含めて全員がその質問に回答。主役の人と答えが一致した回数の多い人が勝ち、というもの。ニコリではおなじみの少数決にちょっと似ていますが、ここでは主役と同じ答えになればなるほど良い、というものでした。

2つのゲームはそれぞれ1回ずつ遊ばれましたが、短い時間で遊べるものとしては、まあまあ盛り上がってホッとしました。

＊

しばらくして、またまたゲームの依頼を受けました。

「今度、いくつかのロータリークラブの会員が集まる会合があって、それは100～200人くらいが参加するんだけど、そこで遊べるゲームはあるかな？ できれば、同じテーブル(1つにつき8人くらい)に座る人たちで相談できて、コミュニケーションがとれるようなものがいい」

うーむ、さらに難易度が上がったような気がするんですけど…。しばらくの間悩んで、2つほどゲーム案を出してみました。1つは、先ほどの「ニコリで知る〇〇さん」の1つめのゲーム。ニコリオリジナルではないけど、面白さには定評があるし、質問を考えるために相談しなければならないので、コミュニケーションは確実にとれます。

ただ、このゲームを実際に遊んだ方ならおわかりかもしれませんが、難しそうな問題でも、5つほど質問をぶつければ、ほぼ正解にたどり着いてしまうのです。今回の会合ではテーブルが20卓以上あるので、質問が回ってこないうちに終わってしまうテーブルも多数